

令和3年9月24日

令和3年度 第1回 防衛医科大学校病院医療安全監査委員会議事要旨

1. 日時：令和3年6月30日（水）16：00～17：00
2. 場所：防衛医科大学校病院東棟5階カンファレンス室
3. 司会：高畑 りさ
4. 外部監査委員（出席者）

| | |
|-----------|--------------------------|
| 委員長 齊藤 祐次 | 所沢市薬剤師会顧問 |
| 委員 大舘 千歳 | 国立障害者リハビリテーションセンター病院看護部長 |
| 島戸 圭輔 | 二番町法律事務所（弁護士） |
| 奈良 信和 | 自治体職員 |
| 根本 孝一 | 永仁会入間ハート病院副院長 |
5. 出席者

| | |
|--------------|----------------|
| 病院長 | 塩谷 彰浩 |
| 医療安全担当副院長 | 辻本 広紀 |
| 医療安全・感染対策部部长 | 横江 秀隆 |
| 医療安全推進室室長 | 医師（GRM） 高畑 りさ |
| 医療安全推進室副室長 | 看護師（GRM） 村上 理代 |
| 医療安全推進室室員 | 医師 橋本 賢一 |
| | 看護師（GRM） 盛 淳 |
| | 薬剤師（GRM） 丸山 利江 |
6. 病院長挨拶
7. 医療安全担当副院長挨拶
8. 新着任者紹介
9. 議事
議事進行： 齊藤 祐次 委員長

監査事項

(1) 令和3年度医療安全管理体制について

高畑室長から、令和3年度医療安全管理体制、医療安全推進室目標について説明を受けた。

昨年度は、「医療安全の醸成」を目標に掲げられていたが、今年度は「医療安全の構築」を目標とし、より一層医療安全に対して組織的にも機能的にも実効性のある体制を構築していくこと確認した。

また、今年度受審予定の病院機能評価に対する病院の取り組み、機能評価を受けて

防衛医科大学校病院がどのような体制で取り組んでいくのか質問があり、塩谷病院長、高畑室長より説明を受けた。

(2) 令和2年度インシデントレポート集計結果報告

高畑室長から令和2年度インシデントレポート集計結果の報告を受けた。

レポートの報告件数は3374件であった。職種別の報告件数は看護師、医師（研修医・専修医を含む）、放射線技師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、栄養士、理学療法士・作業療法士、事務官の順に多く、医師（研修医・専修医を含む）の報告割合が令和元年度の12.7%を下回り12.4%であったが、看護師の報告割合が令和元年度の70.4%から74.2%と増えたことも影響していると説明を受けた。また、レベル別発生件数では、レベル0の報告数が減り、レベル2の報告割合が増えていた。レベル5は2件、いずれも医療事故調査・支援センターに報告された事例であった。またレベル4は2件、レベル3bの報告は26件で昨年度の29件より減少していた。発生概要別では、ドレーン・チューブ関連が多かった。患者誤認報告は84件で昨年度と同数であり、研修医等による採血時の患者の取り違いが多く、引き続き患者誤認対策の取り組みを行う予定であることの説明を受けた。

委員からは、誤認防止のための教育等の実施状況について質問があり、高畑室長より新着任者には着任時のオリエンテーションにおいて、事例を掲示しながら教育を実施しているとの報告がされた。

また、ドレーン・チューブ関連のインシデント発生数と抑制実施状況との関連について質問があった。現在、防衛医科大学校病院においては、抑制ゼロを目指した取り組みを実施しているが、今後抑制実施状況とインシデント発生との関連について分析を行うよう委員から提案が出された。

昨年度まで継続的にレベル0の報告数増加に取り組んでいたが、令和2年度については減少しており、委員からも危惧する旨の意見があった。辻本副院長から、レベル0の報告については、職員の余裕がないと報告が増え辛い背景はあり、昨年度のコロナ禍の状況下において職員に余裕がなかったことも一因ではないかとの説明があった。

(3) 医療安全監査指摘事項に対する改善状況報告

(1) 患者支援センターの活動報告について

防衛医科大学校病院においては昨年度「入退院支援センター」が立ち上がり、今年度は、「地域医療連携センター」、「患者支援センター（兼がん相談支援センター）」、「入退院支援センター」の3つを統合した患者支援センターが組織されたことの説明を受けた。この中で、「入退院支援センター」における活用状況について高畑室長より説明を受けた。

委員からは、取り扱う疾患の特色、条件等について質問があった。

(2) 防衛医科大学校病院における人員配置について

以前より、防衛医科大学校病院における人員配置については、監査委員会においても改善の要求を行ってきた。臨床工学技士については、多方面からの継続した要求により増員が実施された。現在、新型コロナウイルス感染症対策、大規模接種センターへの派遣等が実施されているが、人的保障は行われていない。現状、診療制限、手術制限の実施等により対応が行われていることを確認した。また、慢性的な人員不足に対しては恒常的に要望を上げ続けていることを確認した。

10. その他

(1) 医療事故調査・支援センターへの報告事例について

高畑室長から昨年度医療事故調査・支援センターへ報告を実施した事例について報告を受けた。事例の概要とともに、事故調査員会より提言された再発防止策及び現在防衛医科大学校病院において再発防止策に対しどのように取り組んでいるのか、説明を受けた。委員より、発生事例の背景、術式選択について質問があった。

11. 医療安全・感染対策部部長挨拶

12. 閉会

講評・総評

令和3年度医療安全管理体制につきましては前年度の「安全文化の醸成」から「安全文化の構築」への変化を掲げ、一步進んだ方向性を打ち出されました。引き続き病院全体で医療安全に取り組んでいただきたいと思います。

令和2年インシデントレポート集計結果については報告数の変化から、コロナ禍により病院業務がひっ迫した状況で職員の業務負担が増加していることが読み取れました。その中であっても、レベル2以上の報告がきちんとされていることは業務多忙のなかでも医療安全の優先度が高いことを示すものであり、病院全体に安全文化が浸透してきていることを感じます。今後は報告された事例報告の分析等を行い適切な対策を講じることで病院としての体制づくりに生かしていただきたいと思います。

医療安全監査指摘事項についてはできることから対応されており、数字にも変化が表れており今後も引き続き取り組みを継続していただき指摘事項が改善されますことを期待いたします。

全体を通しては、病院の社会的役割や現在行われている業務を鑑みますと恒常的に人員が不足しており、現在も職員にかなりの負担がかかっていることがわかります。今後もこのような状況が続くことで、医療安全に影響を及ぼすことが懸念されます。会計面で特殊な環境がありますが、関係各署の理解を求め必要な人員を確保して、病院の医療安全と業務が充実することに期待いたします。

医療安全監査委員会 委員長 齊藤祐次